

令和5年度 社会福祉法人はるかぜ福祉会 自己評価シート 集計表

保育理念・保育感		はい	いいえ	どちらでもない
1	あなたは、全ての子どもについて、一人ひとりの存在と、その人権を尊重しているか。	100%	0%	0%
2	児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障することが保育園の重要な使命と理解しているか。	90%	0%	10%
3	保育所保育は養護と教育が一体となって行われている、ということ意識して保育をしているか。	90%	0%	10%
4	日ごろから、子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなどの精神的苦痛を与えることがないよう、努めているか。	95%	0%	5%
5	あなたは、子どもやその家庭についての秘密を正当な理由なく漏らすことがないように努めているか。	100%	0%	0%
6	子どもと一緒に思いっきり体を動かして遊ぶことの重要性を理解し、楽しんで保育をしているか。	85%	0%	15%
7	一人ひとりの子どもに目が行き届いていたか振り返り、これからの保育の課題を見つけることができているか。	90%	5%	5%
保育の内容（保育計画・指導計画）		はい	いいえ	どちらでもない
8	指導計画を作成するとき、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み、参考にしているか。	30%	15%	55%
9	保育園の方針である保育計画を基にして、指導計画を作成しているか。	50%	5%	45%
10	月・週案等には、教育的側面（5領域の視点）だけでなく、養護的側面（基礎的事項）もしっかりと盛り込まれているか。	65%	5%	30%
11	月、週、日案などには、子どもの意欲を誘う環境構成が工夫されているか。	65%	0%	35%
12	複数担任の場合、良く話し合ってお互いの考えを十分に理解した上で月、週、日案等を作成しているか。	50%	0%	50%
13	月、週、日案等が実際の子どもの姿、興味、関心にあっていたかという視点から自己の保育を評価・反省しているか。	80%	0%	20%
保育の内容（乳児保育）		はい	いいえ	どちらでもない
14	一人ひとりの子どもの出生時の状況、その後の発育・発達など、生育歴を細かく把握するとともに、その子の背景や保護者の状況を理解しているか。	45%	10%	45%
15	離乳食は、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの育ち具合やその日の体調に合うよう工夫しているか。	60%	5%	35%
16	おむつ交換は「さみちいいね」等とやさしく声を掛けたり、マッサージしたりして、便の回数や便性を把握して清拭しているか。	80%	0%	20%
17	赤ちゃんの目の動き、泣き声、しぐさ、片言をメッセージとして受け止め、ほほえみ、要求に応じる言葉を優しくかえしているか。	90%	0%	10%
18	子どもを外気に触れさせたり、適度な戸外遊びをさせたりして、健康増進をはかるようにしているか。	80%	5%	15%
19	喃語には、ゆったりと応えたり、やさしく話しかけたりして、発語の意欲を育てているか。	100%	0%	0%
20	寝返りができない乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせるようにするとともに、睡眠中の姿勢、かけぶとん、呼吸等の確認をしているか。	90%	5%	5%
21	自分の思い通りにならず、おこったり泣いたりする子どもに対して、丁寧に話してきかせたり、気持ちを切り替える時間をとり、待つことができるか。	80%	0%	20%
保育の内容（1,2歳児保育）		はい	いいえ	どちらでもない
22	集団で保育するときでも、あなたを独占したがる子の気持ちにも十分に満たすなど、子どもの背景に配慮しながら個別対応の努力や工夫ができる。	70%	5%	25%
23	探索行動が十分行えるよう、安全にはよく気を配りつつ、環境を整えた上で、子どもが要求する行動を容認することができる。	75%	0%	25%
24	着替えや食事などの時には、その子に応じた手助けや言葉がけをしながら、時間を要しても自分からしようとする気持ちを大切にすることができる。	90%	0%	10%
25	食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食べる意欲を育てるために、楽しい雰囲気や食事が出来ることを第一に考えている。	95%	0%	5%
26	子どもがおもちゃの取り合いなどでぶつかりあう時、危険のないよう配慮しつつ、子どもの発達の程度や心の動きを考えながら見守ることができる。	80%	5%	15%
27	「おや、なんだらう?」「これで遊ぼう」と子どもの好奇心や興味を引き起こす教材や素材、場を用意する心配りをしている。	70%	0%	30%
28	散歩の時、保育者も一緒に楽しみながら、花や葉、虫や動物を見つけたら、自然物や動物への興味・関心を持つことを大切にしているか。	75%	0%	25%
29	子どもと会話する時に、その子の目線に合わせて話をゆっくり聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感することができる。	100%	0%	0%
30	歌を歌ったり、リズムにのって体を動かすとき、あなたは歌や動きを子どもに合わせて、一緒にたのしむことができている。	100%	0%	0%
保育の内容（3歳以上児）		はい	いいえ	どちらでもない
31	子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるように、いつも心を開いて、信頼関係を作る努力をしている。	100%	0%	0%
32	子ども一人ひとりの背景や保護者の状況を理解し、受け止めて、安心して甘えられるように、子どもの気持ちに寄り添い支えることができる。	75%	0%	25%
33	子ども一人ひとりの必要に応じて、心も体もゆったりとくつろげるための空間と時間を作り出す努力をしている。	55%	0%	45%
34	「食育」の考え方を大切にし、食事を「楽しく・おいしく」味わえるように、テーブルの配置や飾り付けなども工夫している。	45%	5%	50%
35	おもらしをしたり、排泄の後始末がうまくいかなくても、さりげなく対応し、自分で出来るように個別の指導をしている。	65%	0%	35%
36	子ども達が快い疲労感を感じて昼寝に入れるよう、十分な遊びの場や時間を設けるようにしている。	75%	0%	25%

保育の内容（3歳以上児）		はい	いいえ	どちらでもない
37	清潔でいることは気持ちの良いことと子どもが知るため、手洗い場やトイレ等をいつもきれいにしている。	85%	0%	15%
38	子どもが色々な楽しさを味わうため、散歩などの戸外に出かける機会を積極的に多く取り入れている。	40%	0%	60%
39	「保育園や先生が好きだ」と言った幸福感を味わえるために、子どもが充実できる生活の場を日頃から用意している。	60%	0%	40%
40	子ども一人ひとりの発達段階を理解し、働きかけながら、子どもが決まりや約束の大切さに気づき、守ろうとする態度を養うことができている。	55%	0%	45%
41	一人ひとりの興味や発達に応じた取り組みをして、子ども達と一緒にわかりあう喜びを味わう場や機会を用意できている。	65%	0%	35%
42	木の実等色々な物を比べたり調べたりして、自然の不思議さや面白さを子どもと共感するとともに、物の性質や数・量などに対する興味を育てている。	55%	0%	45%
43	子どもが自由に取っ出して遊べるよう、遊具・用具などの構成を整え、その量や補充について工夫している。	65%	0%	35%
44	声の大きさに気を付け、わかりやすい、子どもへの心を込めた暖かな言葉使いでゆっくり話すように努めている。	90%	5%	5%
45	子どもの目をやさしく見つめながら気持ちを合わせ、言葉だけでなく、目の動き、顔の表情、体全体のにじみにも注意を払っている。	90%	0%	10%
46	「早く～しなさい」「だめ」「いけません」等の指示・命令する言葉や禁止語を出来るだけ使わないよう配慮することができる。	65%	5%	30%
47	問い詰めたり、押し付けたりせずに、子ども自ら考えるきっかけになるような、分かりやすい言葉遣いを心がけている。	85%	5%	10%
48	見たこと、感じたものに対して、言葉、絵、造形、体、音など、その子が最も好きな、得意とする方法で表現することを大切にしている。	65%	0%	35%
49	子ども達の遊びに、体を使った様々な表現遊びを多く取り入れるよう配慮している。	70%	0%	30%
保育の内容（特別な配慮や支援を必要とする子どもの保育）		はい	いいえ	どちらでもない
50	保育園は、障害をもつ子ども、そうでない子ども「共生」「共育」の観点から、当たり前のこととして保育をするという考えを理解している。	85%	0%	15%
51	障害児も、そうでない子ども互いの良さを感じ取り、楽しく交流できる雰囲気づくりに努めることができる。	80%	0%	20%
52	園のケース会議で積極的に議論することにより、園内の障害児への理解を深めるよう努めることができる。	50%	5%	45%
53	日常的に保護者との話し合いの場等を設けて、不安や焦り等悩みを抱えている保護者の気持ちの援助をすることができる。	65%	5%	30%
保育の内容（行事）		はい	いいえ	どちらでもない
54	「行事」を保育に取り入れるときには、それが子どもの健やかな育ちにつながる意味をもつことを意識して保育を行っている。	90%	0%	10%
55	子ども達にとってその季節や時期にしか味わえない有意義な体験となる「行事」になるよう工夫することができる。	85%	0%	15%
保育の内容（延長保育・一時保育）		はい	いいえ	どちらでもない
56	次々にお迎えがくる中で、「ママこないね」等のつぶやきに対し、子どもの気持ちを受け止め、安定した気持ちで待てるよう配慮することができる。	95%	0%	5%
57	延長保育の子どもには、担任でなくとも園での様子が保護者に伝わるよう、連絡帳やお便りを活用して伝えるように配慮している。	70%	5%	25%
58	延長保育の時間帯には、とりわけ異年齢の子ども同士で遊べるような工夫をしている。	75%	0%	25%
保健活動・安全管理		はい	いいえ	どちらでもない
59	身長・体重等の測定や、医師の診断から発育・発達の状態を把握して、それを保護者や他の職員に伝えるとともに、日常の保育に活かすことができる。	70%	0%	30%
60	その子の体調の些細な変化や異常に速やかに対応するため、日常的な体調や機嫌の状態を掴むように努めている。	100%	0%	0%
61	子ども一人ひとりの体調をしっかり把握し、食事の量や内容を変えるなどの配慮をすることができる。	80%	0%	20%
62	睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態を観察するなど、SIDS等への予防に努めているか。	95%	0%	5%
63	日頃から虐待の早期発見を心掛け、虐待が疑われる場合には園長に伝える等の防止策を考えている。	85%	0%	15%
64	備品棚やピアノなどの転倒防止、その他事故が起こらないように、保育室内外の安全点検を毎日怠らないよう努めている。	65%	5%	30%
65	地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練に参加し、非常災害時に自分が何をしなければならないのか理解している。	85%	0%	15%
66	不審者が侵入した場合に備え、子どもの安全を確保するための対策を日頃から心がけ、職員間で話あっている。	80%	0%	20%
保護者・地域社会・関係機関との連携		はい	いいえ	どちらでもない
67	園での様子を伝え、家庭での様子を聞く中で、子どもの育ちを保護者とともに考え、喜びあうことができる。	85%	0%	15%
68	その日の子どもの健康状態や興味を持った遊びなど、必要に応じて送迎の時に保護者に丁寧に伝えることができる。	85%	5%	10%
69	保護者が育児の悩みや心配事を話してみたり、一緒に考えてくれる存在であると思えるよう、進んで触れ合うことを心掛けている。	85%	0%	15%
70	連絡帳について、保護者が内容についてよく理解でき、楽しみにしてもらえそうな書き方をすることができる。	60%	0%	40%
地域の子育て支援		はい	いいえ	どちらでもない
71	日頃の保育内容や子ども達への保育方法のすべてが地域の子育て支援につながることを自覚している。	70%	0%	30%
72	保育園には子育て相談などの「地域子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自らも積極的に関わろうという意欲を持っている。	65%	5%	30%
73	子育て相談を実施する際に連携すべき機関等（保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等）の機能について適切に把握している。	40%	15%	45%

保育園の職務・役割分担		はい	いいえ	どちらでもない
74				
75	園長や主任などと意見が合わないとき、十分に話し合った上で、上司の指示に従うことができる。	90%	0%	10%
76	職員会議等で必要と思う質問や意見をはっきりと発言することができる。	70%	5%	25%
77	職員会議等で自分の意見や考え方と違う結論が出たとしても、それによって気持ちよく協力し、実行出来る。	85%	0%	15%
保育士としての資質向上		はい	いいえ	どちらでもない
78	保育士としての責務と誇りを自覚して、人間性と専門性の向上に努めている。	95%	0%	5%
79	自己の保育を振り返り、問題点や課題をみつけることができる。	95%	0%	5%
80	自分の保育に対する同僚や上司からの批判や意見を、感情的にならず、謙虚に聞き、時には反省することができる。	100%	0%	0%
81	その日の子ども一人ひとりの活動や姿を、しっかり記録にとどめることができる。	55%	0%	45%
82	研修で得た内容・成果は、園の職員にわかるよう丁寧に説明し、意見交換をすることができる。	55%	0%	45%
83	保育実践について、園長はじめ、他の職員が把握できる保育日誌などの記録を書くことができる。	65%	0%	35%

No.8の結果を受けて、職員に幼保連携型認定こども園教育・保育要領の必要、重要性を理解してもらうために宮城県幼児教育アドバイザー派遣事業をお願いし、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領を活用した指導計画の作成について」の研修を依頼し受講した。今後、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を活用して指導計画書を作成していくことを理解させること及び指導を行っていく。次年度以降、この数字がどう改善されていくか注視していく。